

オオウラギンスジヒョウモン

Argyronome ruslana



種名

分類	タテハチョウ科
----	---------

形態

前翅長 34～43mm。ウラギンスジヒョウモンとよく似ており、間違えやすい。本種は翅型が横長で、前翅外縁のくびれが大きい。後翅表の内側にあるジクザク条の黒条が太く、1本につながる。♂の前翅表には、3本の発香鱗条(性標)がある。♀は♂より大きく、地色は黄色をおびる。そして、前翅標の翅頂に白色斑をもつ。

分布

北海道、本州、四国、九州。分布は広いが、ウラギンスジヒョウモンより産地は限られる。

出現期

年1回の発生。6月中旬から羽化を始め、ウラギンスジヒョウモンより少し遅れて出現する、7～8月は、山地や寒冷地を除いてほとんど姿を消す。しかし、暗い樹林内で少数の個体が見られ、発生地から移動して夏を過ごすのかもしれない。

生態

飛び方は素早く、アザミ類、クガイソウ、オカトラノオ、リュウブなどでさかんに吸蜜する。秋に再び姿を見せ、低地にも飛来することがある。越冬態は卵(卵内初齢幼虫)、または1齢幼虫。

食樹

スミレ科のタチツボスミレなど。

幼虫
(幼生期)

体長45mm。頭部は褐色、胴部は灰色。ウラギンスジヒョウモンより色彩は淡く、棘状突起が太い。背面に2本、黄色の縦縞がある。

出現時期

(月)	-	-	-	-	-	6	7	8	9	10	-	-
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---

その他

参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ